

## ごあいさつ

板橋区立上板橋小学校長 鶴田 章子

上板橋小学校は、今年創立150年目を迎える長い歴史のある学校です。4月1日現在の児童数は215名の小規模校です。学校には、通常の学級の他に、特別支援学級（知的）と難聴言語学級（きこえとことばの教室）があり、多様な子どもたちが共に学んでいます。通常の学級と特別支援学級の子どもたちは、委員会活動やクラブ活動、異学年交流であるたてわり班活動や学校行事等を通して共同学習や交流活動を計画的に行っています。



学校のシンボル まてばしい

また、難聴言語学級では、吃音や構音、読み書きや聴覚に課題のあるお子さんが通級による指導を行っています。子どもたちは、日頃から関わり合いを通して違いを認め、相手のことを尊重し、相手の立場に立って考えられる思いやりのある優しい心を育てています。

せせらぎ学びのエリア【上板橋小学校・常盤台小学校・弥生小学校・上板橋第一中学校】では、義務教育9年間を通して育てたい子ども像を「MIRAIを拓く子ども」とし、

- 目標に向かって見通しをもって取り組み、自分らしく進む子
- ゼロから切り拓くために、情報を活用し、自分の考えを表現する子
- 心身ともにたくましく、自ら行動を起こし挑戦する子
- 人とのつながりや地域を大切にし、助け合い認め合って生きる子

を教育目標に掲げ、小中一貫教育に取り組みます。義務教育9年間を通して、板橋区授業スタンダード・板橋区授業スタンダードSに基づいた、めあてを明確にした問題解決型・探究型の学習や協働学習、自分で学び方や方法を選択する自己調整型学習を行っています。主体的・対話的で深い学びと小小・小中学校の連携、学びの連続性を大切にして推進していきます。

上板橋小学校では小規模校の特色を生かし、すべての教職員がすべての子どもに寄り添い、関わる「チーム上板小」で教育活動に取り組んでいます。また、iCS【コミュニティ・スクール委員会】が学校と地域をつなぐ窓口になり、開校150年の節目を迎え、より一層、地域との結びつきを深めていきたいと思えます。

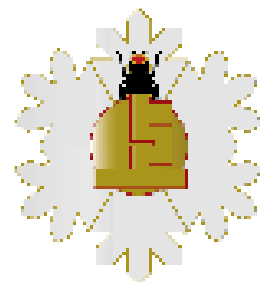
OYA-Gの会では、子どもたちが保護者の方々と一緒に楽しく参加できるイベントや季節の行事を実施しています。最近、高学年の児童や卒業生が手伝いに来てくれるようになりました。4月には毎年恒例の人気イベント、「新1年生歓迎 ペットボトルロケットづくり」を実施します。ドッジボール大会に向けての練習にも熱が入り、令和8年度は



土曜日や日曜日の練習や対外試合も行いました。

### 【校章の由来】

校章は、雪の六角形の結晶の中心に、上板橋の「上」という漢字があります。その上にいる虫は蛍です。校章には、『昔、貧しくて明かりに使う油が買えず、蛍の光や月明かりで勉強して立派になった人がいたので、上板橋小学校の子どもたちも、何事にも負けずに頑張してほしい。』という願いが込められています。



### 【学校のうつり変わり】

令和8年5月7日に上板橋小学校は開校して150年目を迎えます。板橋区の中では板橋第一小学校、紅梅小学校について3番目に古い学校です。

上板橋小学校の歴史を遡ってみましょう。

明治9年（1876年）10月25日に、第四中学区第十九番公立小学校板橋学校として誕生しました。宝蔵院（ほうぞういん）を仮校舎にして授業が始められました。宝蔵院は今の安養院（東新町2丁目30-23）の西隣にある、当時は誰も住んでいないお寺でした。

明治15年5月7日に新しくできた校舎に移り、この日を開校記念日としました。子どもの数は41名で、草葺き屋根、障子窓、平屋建ての建物でした。ガラスは貴重品だったためまだ無く、破れた障子の穴からほこりがまいこんで目も開けられないほどでした。学校は今と同じように長命寺の隣にあり、「長命寺学校」と呼ばれていました。子どもたちは、長命寺の門をくぐり、本堂の前を通過して教室へ入りました。学校の周りには塀などがなかったので、お寺の境内は子どもたちの遊び場になっていました。当時はまだ、学校に対する関心は薄く、4年だけで終わる子どもも多かったそうです。学校の費用は「学校世話掛（がかり）」という人が大きな財布を下げて、家々を回って集めていました。

校庭にまてばしいが植えられたのは、明治30年頃とされています。

明治34年に、上板橋尋常高等小学校と校名が変わりました。

明治40年には子どもの数は289名になっていました。この頃の子供たちは、着物を着て学校へ通いました。草履や下駄を履いて、学用品は木綿の風呂敷に包んでいました。今の鉛筆に当たるものは石筆（せきひつ：蠟石）、ノートは石板（せきばん）でした。給食は無かったので、お弁当を持ってくるか家に帰って食べるかでした。

明治44年頃、校章ができました。児童数は454人に増えました。

昭和に入ると上板橋小学校の児童数もどんどん増え、教室が足りなくなってきました。授業は二部（午前の部と午後の部）に分けて行いました。通学範囲も今よりもずっと広がったそうです。学校の周りは校歌にあるように、石神井川は魚つりや水遊び、夜はホタル狩りのできる自然豊かなところでした。

昭和7年に、東京市上板橋尋常・高等小学校と校名が変更になりました。

昭和16年に小学校から国民学校となり、東京市上板橋国民学校と校名が変わりました。太平洋戦争が始まり、東京も空襲を受けるようになりました。防空壕という避難用の穴が教室や廊下の下に掘られ、防空訓練が行われました。

昭和19年8月、戦争が激しくなり、子どもたちは田舎の方に避難して生活することになりました(学童疎開)。群馬県高崎市の榛名神社の近くに疎開しました。疎開先では授業を受け、終わると食べ物探しや農家の手伝いをしました。みんな助け合って生活していました。

昭和21年に70周年を迎えましたが、終戦直後でお祝いもできず延期し、27年になって記念式を行いました。この記念に校歌がつくられました。作詞の増田光生氏は上板橋小の父兄でした。作曲の平井康三郎氏は「とんぼのめがね」等を作曲した方です。

昭和33年に給食室が当時の最新の設備を整えて今の場所に移されました。東京でモデル校的な存在になりました。

昭和36年に校庭がアスファルトで舗装されました。この年に現在の五組(特別支援学級)が新設されました。

昭和47年に今の場所にプールができました。それまでは、たて12メートル、横6メートルしかない小さなプールでした。

昭和49年に難聴学級ができました。

昭和58年に言語障がい学級が併設されました。

現在の緑色の校帽に決まりました。

平成元年にプール改築され、現在使われているプールの姿になりました。

平成19年に校庭が人工芝になりました。この芝も古くなり、令和3年に校庭改修工事が行われ、今の新しい人工芝に整備されました。また、環状七号線に面した南門側に防球ネットの張り替えを行いました。

令和3年に、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、コロナ禍でも学習を止めないために、児童に一人一台端末が配布され活用されることになりました。新しい学校の生活様式になり、教室での学びの風景が一変しました。

令和6年には、プールの水槽の内側とプールサイドの張替工事を行い、ラバーが鮮やかになりました。校内のLED化も2年がかりで進め、省エネ化を図っています。

校庭のまてばしいの木は学校のシンボルとして、上板小の元気に遊ぶ子どもたちを見守り続けてきました。秋になると実を落とし、どんぐりを拾い集める子どもたちの姿が見られます。落ちたどんぐりの実から次の世代のまてばしいの木を育てる『まてばしい 未来へつなごうプロジェクト』を試みます。

地域の方々の温かいご支援・ご協力のもとに学校が誕生し、これまでの学校の長い歴史が刻まれています。令和のコロナ禍を経験し、学校も令和の新しい学校づくりに取り組んでいます。これからもこの上板橋小学校が地域の方々の心のふるさととなり、子どもたちの笑顔がいっぱいのたのしい学校になるよう、力を尽くしてまいります。

150周年のイベントも企画していますので、ご参加お待ちしております。